

氏名	森 下 嗣 威
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3121号
学位授与の日付	平成9年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	高齢者の変形性膝関節症に関する有病率、増悪因子、及び日常生活動作に対する影響に関する疫学的研究
論文審査委員	教授 青山 英康 教授 武田 和久 教授 清水 信義

### 学位論文内容の要旨

岡山県大原町の65歳以上の全住民を対象に、アンケートを用いて横断的疫学調査を行い、老人の変形性膝関節症の有病率、増悪因子、日常生活動作(ADL)に及ぼす影響を定量的に調べた。解析にはオッズ比(OR)を用いた。1190人より回答を得て、回収率は81.1%であった。有病率は男性46.7%、女性64.5%であった。変形性膝関節症に影響を及ぼす増悪因子として5項目；性、年齢、身長、体重、肥満度(BMI)を調べた。女性であるという事(性)、加齢(年齢)はそれぞれ変形性膝関節症の発症との関連が認められた。身長に関しては男性にのみ関連があり身長170cm以上でOR=2.00であった。BMIに関しては、女性において特に関連が強くORは2.27から7.94であった。男性ではBMI 26.4以上でOR=5.29であり関連があった。ADLに関しては、正座の障害、階段昇降障害、歩行障害の順にORが高く関連が強かった。これには膝蓋大腿関節の関連が示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本研究は人口の中で老年人口の占める比率が27.7%である岡山県大原町を、急速に少子・高齢化が進展する我が国の将来像と考え、同町の65歳以上の高齢者全員を対象に、地域における変形性膝関節症の発症による生活機能の低下を予防する方策を見出す目的で、膝関節痛の有訴率とADLの障害の発生頻度にかかわる要因の影響を疫学研究によって、定量的に明らかにする方策として、性差や加齢、身長、体重などをオッズ比を用いて検討したものであり、整形外科学の地域医療への貢献にとって重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。